

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

J01

1.アルファベット氏名	ALATAN HUSILE	非公開
カナ又は漢字氏名	非公開	
2.出身国又は地域	中国	
3.学年	3	
4.学校名	非公開	
5.学種	大学院	写真 タイトル
6.所属研究科・学部等名	非公開	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 23 年 4 月 ～ 終了年月 20 24 年 3 月	
(1) 日本への留学まで 私は両親が日本で留学の時に東京で生まれ、中国で育ちました。日本に対してとても親しみに感じます。中国で大学教育を受けましたが、専門は臨床医学でした。日本への留学を選んだ理由としては、日本は世界中に最も平均寿命が長く、老人介護やリハビリテーションなどもとても発達していると思います。また内視鏡技術などは日本のような先進国に及べる国はあまりないと考えもあります。日本の大学院で勉強しながら医師免許を取得しようと考えました。		
(2) 日本での留學生活 日本での留學生活はとても充実していて、チューターとして、たくさんの外国人友達ことができました。平日は大学で研究を行い、土日はアルバイトをしています。学習奨励費の給付が始まってから少しシフトを減らし受験勉強に集中できるようになりました。		
(3) 日本での就職活動・進学		
後輩へのメッセージ 留学することは自分の人生にとってかけがえないの経験になると思います。焦らず、慌てず、諦めず、頑張ってください！		

1.アルファベット氏名	ZHANG HUI	
カナ又は漢字氏名	章 輝	
2.出身国又は地域	中国	
3.学年	修士1年	
4.学校名	山梨大学	
5.学種	大学院	写真 タイトル 未来プロジェクトの活動写真
6.所属研究科・学部等名	医工農学総合教育部 生命環境学専攻 バイオサイエンスコース	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 23 年 4 月 ～ 終了年月 20 24 年 3 月	
(1) 日本への留学まで 小さい頃からアニメが好きで、日本の文化や生活を夢見ていました。高校生の時、生物学に興味をもち、アニメ好きと相まって、世界的に生物分野での研究が優れている日本への留学を決めました。日本への留学は、生物を勉強できるだけではなく、日本の文化と生活を体験できるいい経験にもなると思いました。日本へ留学することにより、新しい文化体験以外にも、一人暮らしの能力や、様々な環境への適応力を高めることは、これからの人生のためにもなると思いました。母国と異なる文化を体験し、いろいろな人に会うことで、自分の経験値が増えて人生が豊かになると思いました。		
(2) 日本での留学生活 日本の留学生活で特に大変だったのは入学試験でした。中国と違い、日本では学校で実施される入学試験を受けなければなりません。そのため、私は東京から鹿児島まで行って入学試験を受けたこともありました。日本の地の利もなく、日本語も十分とはいえない状態での遠方までの受験は、私にとって心身の負担がとても大きく、お腹を壊してしまうほどでした。しかし、せっかくの日本での旅行を楽しもうと、受験の後はいっきり観光を楽しみました。試験には無事合格し、この時の経験は今ではいい思い出になっています。		
(3) 日本での就職活動・進学 日本語学校から学部へ、学部から大学院へ、二回進学の体験をしました。それらの体験で共通して感じたことは、情報収集の重要性です。どんな学校が自分に向いているか、どんな勉強ができるのか等の情報収集は、自分の将来の道を大きく左右すると思いました。本奨学金を受けて「山梨留学生就職促進プログラム」に参加する中で、企業が求める人物像や必要なマナーなどを聞く機会も多く、プログラムで得た知識・情報は、自分にとって理想的な仕事に就く上できっと役立つだろうと思います。		
後輩へのメッセージ 日本での就職・進学は早いうちに準備して損はないと思います。「いつ始めるのがいい？」という質問をするより、思ったら直ぐに行動に移すのが望ましいです。私は、日本への留学を決めるやすぐに具体的な目標を立てそれに向かって頑張ってきたお陰で、留学前から一貫して抱き続けている大きな目標に近づいていると実感しています。		

1.アルファベット氏名	LU QIUYUAN		
カナ又は漢字氏名	陸 秋園		
2.出身国又は地域	中国		
3.学年	2年		
4.学校名	和歌山大学		
5.学種	大学院	写真 タイトル	和歌山の春
6.所属研究科・学部等名	経済学研究科		
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 23 年 4 月 ~ 終了年月 20 24 年 3 月		
(1) 日本への留学まで 中学生ごろから日本アニメをきっかけに日本の文化を知ることができ、関心を持つようになりました。高校時代、第二外国語が日本語を選びました。その後、日本へ留学することに決めました。日本来る前にEJU試験を参加し、EJU成績を持ちました。その後、日本語学校が9カ月を卒業し、大学に進学しました。日本来る前にEJU、JLPT、TOEFL、TOEICなど試験を準備することが大切なことと思います。			
(2) 日本での留学生活 和歌山大学の教員・教授がとても親切に接してくれた留学生活でした。また、学習とアルバイトを両立するように取り組みました。日本の友人や先生たちに助けられて、日本での生活に慣れました。また、夏休みには日本各地へ旅行して、日本の伝統文化に体験することだけではなく、日本の社会発展や技術普及などを理解しました。教授や先輩たちのご指導の下、無事に内々定を取りました。今後は今まで以上に学術研究を行い、将来の計画を立て、10月の中間報告会と修士論文を準備しています。			
(3) 日本での就職活動・進学 就活活動を行うか、進学するか、できるだけ早く準備し始めることが大切だと思います。学部4年時、進学を決めて、入学試験の過去問をもらって、練習しました。その後、無事に大学院が合格しました。博士前期1年時、博士後期に進学することをやめて、日本での就職を決めました。学校のキャリアセンターを利用して、就職支援先生からアドバイスをもらって、挫折したとしても、諦めずに継続して頑張りました。6月で、内々定結果がありました。			
後輩へのメッセージ 留学には、多くの辛いことや挫折がありますが、これらの失敗経験を学びつつ、自分が成長させていくことが重要だと思います。また、日本の文化活動やボランティアが非常に面白いです。機会があれば、是非参加してください。			

1.アルファベット氏名	FU XIAOYI		
カナ又は漢字氏名	フ ショウゲイ		
2.出身国又は地域	中国		
3.学年	二年生		
4.学校名	岡山大学		
5.学種	大学院	写真 タイトル	サバゲー
6.所属研究科・学部等名	教育学研究科教育科学専攻		
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 23 年 10 月 ~ 終了年月 20 24 年 3 月		
(1) 日本への留学まで 大学を卒業してから、深センのゲーム会社で2年半働き、主にゲームデザインに携わっていました。子供の頃からゲームに興味を持ち、ゲーム業界で働いた経験から、日本ゲーム産業に魅力を感じ、日本での学びを志すようになりました。しかしながら、元々は日本語を専攻していなかったため、仕事の合間を見つけて日本語を独学で勉強しなければならませんでした。N1試験に合格するまでには大変な苦勞がありました。その後、大学院の教授と連絡を取り、研究生として来日しました。			
(2) 日本での留学生生活 現在は大学院で修士号を取得するために勉強しています。私の専攻はゲーミフィケーションであり、学習にゲームの要素を取り入れ、学習効率を向上させる研究を行っています。研究科では、プロジェクトベースの学習（PBL）があり、興味のあるプロジェクトを選び、グループで研究することができます。また、友達と一緒にサバゲーに参加したり、新しい友達と出会い、異なる文化に触れることで人間関係も深まりました。			
(3) 日本での就職活動・進学 大学では、外国人留学生向けに日本語のサポートが豊富にあり、チューターシステムやLcafeなどが提供されています。専攻が異なるにもかかわらず、初めて日本に来た際に安心して過ごすことができました。先生方やクラスメイトたちは私の学業と就職活動をサポートしてくれ、現在はいくつかの内定をいただいています。			
後輩へのメッセージ 自分が最もなりたい人物になりたいのであれば、ぜひ日本に来てみてください。			

1.アルファベット氏名	GUO QIHANG		
カナ又は漢字氏名	郭起航		
2.出身国又は地域	中国		
3.学年	修士1年		
4.学校名	東北福祉大学		
5.学種	大学院	写真 タイトル	講義にて
6.所属研究科・学部等名	総合福祉学研究科・社会福祉学専攻		
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 23 年 4 月 ~ 終了年月 20 24 年 3 月		
(1) 日本への留学まで 私は大学二年生の時に、交換留学生として、幸運にも日本に来て一年間勉強して、貴重で忘れられない一年間を過ごして、その時も日本に来て勉強を続ける種を植えました。その頃から、日本の文化に興味を持ち始めました。中国で大学を卒業した後、日本に留学して、福祉知識をもっと学びたいです。日本への留学を選んだ理由としては、日本は世界的に見ても衛生的な国で、ほかの国に比べて治安も良いため、日本で暮らしたいと考える外国人は多いようです。また、食事のクオリティの高さや社会保障制度の充実度、福祉分野での発展もアジアの他の国をはるかにリードしており、これらの先進的な経験と知識は私たちが深く理解し、学ぶ価値があるだと思います。			
(2) 日本での留学生活 日本での留学生活は、常に新しいことに挑戦していると感じます。一人で生活するのは初めてで、なんでも自分でやらなければならない状況の中で、生活することの大変さを学ぶことができました。習慣、言語、生活などに大きな違いがあり、その後1年間の聴講生の努力を経て、無事修士に合格し、奨学金も受けました。学習奨励費のおかげで、自分が関心のある分野の研究に専念することができ、また日本の社会生活を深く体験して、日本の学生や他国の学生と交流して、いろいろな文化を体験して、友達を作ることができました。経済的な不安が軽減されました。大学院の学業に専念しています。授業後は毎回、講義内容を整理、次の授業の前に復習します。また、毎週、図書館で自身の研究に関する論文を探して読み、メモを作成します。本当に助かりました。これからいろいろなボランティア活動に参加して、勉強しながら、自分の力を発揮していきたいと思っています。			
(3) 日本での就職活動・進学 就職か進学を早めに決めて、目標を決めたら、周りの情報や助言などを上手く活用することはとても重要だと思います。早いうちに会社説明会やウェブ上から企業の情報を得て、必要とする資格免許等を確認することが、就職活動に有益になると思います。例えば、学校の就職支援指導、先輩からのアドバイス、各会社の説明会、そして参加するためにホームページをできるだけ利用します。私の理想はこれから自分の老人施設を設立し、日本で学んだ理念を生かし、中国人と日本人の文化的な違いを結合し、架け橋になる老人施設を作ることです。梅干しもザーサイも両立できるの施設を作りたりです。これからもっと頑張ります。			
後輩へのメッセージ 日本に留学したいなら、まず日本語を勉強しなければならない。もし日本語が上手でなければ、あまり心配しないで、積極的に楽観的な心理状態は最も重要で、積極的な授業、活動に参加して、実践の中で日本語を学んで、日本文化を体得して、後悔がないように留学生活を続けましょう。星空を見上げるのも地道に頑張るのも！			

1.アルファベット氏名	LIU FENG	非公開
カナ又は漢字氏名	リュウ ホウ	
2.出身国又は地域	中国	
3.学年	修士2年	
4.学校名	東京理科大学	
5.学種	大学院	写真 タイトル
6.所属研究科・学部等名	創域理工学研究科 情報計算科学専攻	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 23 年 4 月 ～ 終了年月 20 24 年 3 月	
(1) 日本への留学まで 高校の点数が足りなくて、好きではない学科に配属されました。時間を無駄にして、好きではない科目で4年間勉強するよりも、違う環境で再出発したほうがいいと思うので、日本に来ました。再び大学受験の勉強して東京理科大学に入学しました。好きな情報科学を学ぶことができました。		
(2) 日本での留学生活 留学生活は非常に充実しており、有意義な経験でした。学んだことは主に三つがあります。一つ目はITスキルを身につけました。大学四年+修士二年、東京理科大学でエンジニアになるためのプログラミング言語、必要な数学知識、機械学習などについていろいろ勉強しました。二つ目はソーシャルスキルを身につけました。新しい国で、生活を立ち上げることはやはり大変ですよね、誰も知らない環境で友達を作って、友情を維持する間に、自分から積極的に話しをかけて、どんな相手でも円滑にコミュニケーションを取れるような「コミュニケーション能力」が鍛えられました。三つ目は言語力です。最初に日本に来たとき、五十音しかわからなくて、授業の内容も理解できなかったが、今は普通に日本の方とコミュニケーションできました、研究室で自分の意見や考え方をみんなにうまく伝えるようになりました。		
(3) 日本での就職活動・進学 快適な環境から一歩踏み出し、慣れない環境で働くことで、自分がより早く成長できると考え、日本での就職を選びました。最初に、就職活動の準備には大量な時間と労力が必要です。最初は大変でしたが、諦めずに努力を続けた結果、第一志望の会社からオファーをいただきました。 去年の12月から、就職活動と学会発表で忙しくなり、アルバイトを辞めざるを得なくなりました。JASSO奨学金を受け取るおかげで、就職活動や学会発表に集中する時間と余裕を確保することができ、両親の負担を減らし、留学生生活を継続することができます。		
後輩へのメッセージ 決めたことは、若いうちに思い切って行動し、後悔を残さないようにします！		

1.アルファベット氏名	YU BO	
カナ又は漢字氏名	于 博	
2.出身国又は地域	中国	
3.学年	一年	
4.学校名	関西学院大学	写真 タイトル
5.学種	大学院	
6.所属研究科・学部等名	言語コミュニケーション文化研究科	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 23 年 4 月 ～ 終了年月 20 24 年 3 月	
(1) 日本への留学まで 私は母国の大学入学後独学で日本語の勉強を始めました。大学は日本の大学と協定しており交換留学生と出会える機会がたくさんあり、それが日本への留学を目指す一つのきっかけとなりました。入学以降ずっと日本へ行きたい気持ちでいっぱいでしたが、コロナウイルスの関係でなかなか日本へ行くという夢が叶いませんでした。仕方なく中国の大学院入試を受け、運よく北京第二外国語大学に受かりました。偶然にも大学には関西学院大学へ留学することができるダブルディグリーという日本で学べる制度があり、「今度こそ絶対に機会を逃がしたくない」と思い申し込みました。		
(2) 日本での留学生活 私は日本へ来てすべての物事に興味津々と言っても過言ではありません。日本へ来る前はかなり日本語の勉強を頑張ってきたので日本語での交流はさほど問題ではありませんでした。一人暮らしの手続きから、家具の購入、ガス、水道や電気の契約などすべて自分で行いました。学業に重きをおきながら、少しアルバイトもしています。毎日頑張っていますが、同じ大学の学生たちとも仲良くなり、楽しい生活を送っています。先生方にもとてもお世話になっています。		
(3) 日本での就職活動・進学 私は今大学院一年生なので、就職をするか進学をするかまだ迷っているところですが、どちらの選択をしたとしても、日本で経験したもの、得られた知識を活かしながらきっとどんな困難でも乗り越えられると強く信じております。		
後輩へのメッセージ 海外に行くのはいささか怖いイメージがあるかもしれませんが、悩みはあるにしても後悔は絶対しません。なぜかというと自分自身の祖国とは違う世界が見えてくるのです。日本に興味がある方、留学を経験したい方、ぜひ来てみてください。日本でお待ちしております。		

1.アルファベット氏名	HU BOYAN	非公開
カナ又は漢字氏名	胡 博彦	
2.出身国又は地域	中国	
3.学年	2	
4.学校名	久留米大学	
5.学種	大学院	写真 タイトル
6.所属研究科・学部等名	ビジネス研究科	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 23 年 4 月 ～ 終了年月 20 24 年 3 月	
(1) 日本への留学まで 私は大学2年生の時に、日本の文化に興味を持ち始め、日本に留学することを決めました。大学の留学プログラムを通じて、半年間、日本語を勉強し、日本へ留学しました。日本への留学を選んだ理由としては、日本は世界的に見ても衛生的な国で、ほかの国より比較的治安の良い国であるため、日本で生活・就職してもいいのではないのかと思いました。また、人々のマナーの良さなどが暮らしやすさの理由にも挙げられるため、日本へ留学することを決意しました。		
(2) 日本での留学生活 私は来日後、まず1年間、日本語学校に通いました。その後、名古屋商科大学の入試に合格し、4年間の大学生活を過ごしました。大学を卒業した後も、自分が関心のある分野の研究を続けて進みたいと思ったため、久留米大学大学院を受験し、順調に合格して2年間の院生生活が始まりました。学習奨励費のおかげで、自分が関心のある分野の研究に専念することができ、日本の学生や他国の学生と交流して、いろいろな文化を体験して、友達を作ることができました。		
(3) 日本での就職活動・進学 修士課程修了後は、日本での就職を希望しております。私は大学院2年生になりましたので、就活を行っています。自ら沢山の会社説明会を受け、自分に合う会社を見つけています。当然、周りから集められる情報も大切にしています。例えば、先輩からのアドバイスや、大学の就職支援ゼミでの企業情報や面接のマナー講習などが挙げられます。今まで、会社の2次面接で落ちてしまう経験が多くありましたが、そういった経験を活用して、絶対諦めずに頑張れば、きっと良い結果がもらえます。		
後輩へのメッセージ 日本への留学を希望するなら、日常的な日本語を話すことが重要です。来日後は積極的に日本人とコミュニケーションをとることが大切です。大学の授業では、みんなの前で発表することや、グループワークに参加する機会が多いので、遠慮せずに自分の話したいことをみんなに伝えることが大切です。そうすれば、日本語能力は速やかに成長を遂げられると思います。		